

< あなたの治療について >

呼内-tarlatamab (2c 以降)-SCLC-q4w

今回の治療は、tarlatamab 療法という治療法で、イムデトラという注射薬で治療を行います。イムデトラは腫瘍の増殖を抑えるお薬です。

◎ 治療全体の流れ

今回の化学療法は4週間が1コースとなっています。各コースの1日目と15日目に点滴を行います。この治療を4週間(28日間)ごとに繰り返します。副作用が強く出たり、体調がすぐれない場合は回復するまで、治療を延期したり、お薬の量を減らしたりすることがあります。

◎ 1コース分の治療スケジュール

| 順序 | 薬剤商品名<br>(薬の作用)              | 投与         | 1日目                                                                               | 2~14日目 | 15日目                                                                                | 16日~28日目 |
|----|------------------------------|------------|-----------------------------------------------------------------------------------|--------|-------------------------------------------------------------------------------------|----------|
| ①  | イムデトラ<br>(抗がん剤)<br>10mg/body | 点滴<br>約60分 |  | お休み    |  | お休み      |

★ 点滴中や点滴後に、注射部位が痛い、赤くなってはれる、水ぶくれができる、ただれるなどの症状に気づいたときは、すぐに申し出てください。また点滴中は、腕を動かすことにより針がずれ、点滴漏れが生ずることがありますので気をつけて下さい。

◎起こりやすい副作用について (頻度 20%以上)

イムデトラによる

●サイトカイン放出症候群 ●食欲減退 ●味覚不全 ●発熱

◎特徴的な副作用について

イムデトラにおける

●サイトカイン放出症候群

「吐き気、胃がむかむかする、頭痛、めまい、胸の痛み、動悸(どうき)、脱力感、発疹、唇が青紫色になる、苦しくて早い呼吸、発熱、体がだるい、ふらつき、頭が重い、鼻血、息切れ、あおあざができる、耳鳴り、歯ぐきからの出血」などの症状

●神経学的事象(免疫エフェクター細胞関連神経毒性症候群含む)

「頭痛、めまい、立ちくらみがする、力が入らない、言葉が出ない、ふるえ、けいれん、昼間に眠気が強い、読み書きができない、意識の低下、物忘れ」などの症状

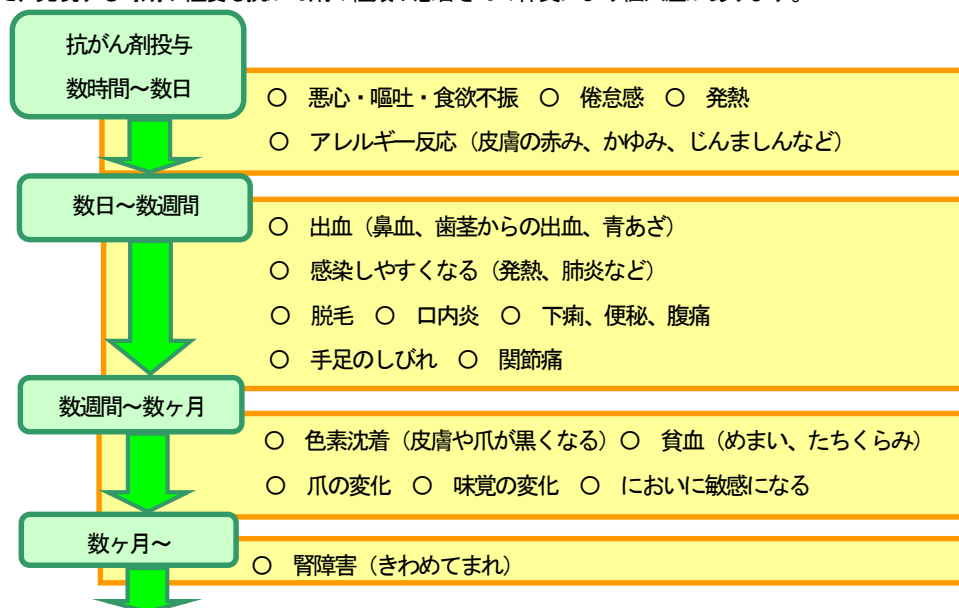
\* 上記症状が現れたときは、必ず医師・看護師・薬剤師にご相談下さい。

## ◎副作用の発現時期の目安

\*この図は、今回用いられている抗癌剤による副作用だけでなく、他の抗癌剤によって起こる副作用も含まれています。

これらの副作用がすべてあらわれるわけではありません。

また、発現する時期や程度も抗癌剤の種類や患者さんの体質により個人差があります。



## ◎副作用の対策について

★吐き気・嘔吐、下痢と便秘、口内炎、感染症、出血、貧血、脱毛などの副作用の対策について知りたい方は、資料をお渡しすることができますのでお申し出下さい。

## ◎薬品毎の副作用について（添付文書における重大な副作用を製薬会社作成「薬のしおり」などから抜粋）

まれな副作用ですが、このような症状が現れた際には医師・薬剤師・看護師へご相談下さい。

### 【イムデトラ】

〔サイトカイン放出症候群〕 発熱、苦しくて早い呼吸、吐き気

〔神経学的事象（ICANS 含む）〕 言葉が理解できない、言葉や状況が理解できない、筋肉に力が入らない

〔血球減少〕 体がだるい、突然の高熱、鼻血

〔間質性肺疾患〕 咳、息切れ・息苦しい、発熱

## ◎上記のほかにも副作用が現れることがあります。

他にもからだの異常を感じたら、主治医や薬剤師、看護師に相談してください。